優秀選手
竹井　恵太（牛深）
下門　宗史（稜南）
松下　博文（松島）
坂井円（苓北・稜南）

▼高校生男子の部個人戦
優勝　宮本　歩（天草高校）
二位　海付治臣（天草高校）
三位　荒木賢一（天草高校）
吉田貴幸（苓明高校）

▼高校生女子の部個人戦
優勝　椿山眞子（天草高校）
二位　門岡磨希（天草高校）
三位　浦上智沙佳（天草高校）

苓北・稜南中学校

第二十七回熊日旗争奪天草地区市町対抗一般剣道大会・天草地区小学生招待剣道大会
平成二十一年二月二十二日（日）
天草市総合武道館剣道場

▼小学生男子の部
優勝　栖本少年青志会
二位　下津浦少年剣道クラブ
三位　松島剣誠会
三位　天武館

▼小学生女子の部
優勝　有明剣道クラブ
二位　有明剣友会
三位　二江少年剣道クラブ
三位　愛剣会

▼一般の部
優勝　有明町
二位　苓北町
三位　本渡Ａ
三位　牛深Ａ

平成二十年度　称号・段位合格者

次の方々が合格されました。おめでとうございます。今後益々のご精進とご活躍を期待致します。（　）は合格時年齢

剣道七段
（京都・四月三十日）
濵﨑武志（48）

剣道錬士
（東京・十一月二十八日）
海付公生（56）
松尾繁八郎（43）

剣道六段
（京都・四月二十九日）
富田純一郎（54）
（福岡・八月二十四日）
本多徹也（50）

剣道五段
（熊本武道館・四月二十七日）
福田裕一（33）
（人吉・八月二十四日）
橋口貴文（31）
福本高志（31）

剣道四段
（熊本武道館・四月二十七日）
西本彰（34）林祐一郎（23）
田中一徹（23）
（人吉スポーツパレス・八月二十四日）半田拓也（23）
城下直之（23）
（浜線健康パーク・十二月七日）船元龍太郎（32）矢田勇喜（28）岩木敬史（28）
小濱久典（27）山下香織（20）森田裕幸（20）

剣道三段
（天草市総合武道館・八月三日）
守屋芳裕（43）松尾ゆかり（43）山下将臣（28）

剣道二段
（阿村総合体育館・十一月三日）山嶋信治（50）

改訂版六段審査を振り返り

富田純一郎

平成二十年四月京都での審査会において六段に昇段することが出来ました。

私は今まで何度か六段の審査を受けましたが、その度に攻めることだけにとらわれすぎ、右手に力が入り、打突の機会を逃し、気ばかりあせるという審査内容の繰り返しで六段審査のハードルの高さを痛感していました。

その後天草剣道連盟主催で西山先生・尾方先生他八段の先生をお迎えしての高段者講習会で個別のご指導をいただき、今までの剣道観が少しずつ変わるようになりました。つまり攻めることばかりでなく懸待一致の打突が出来る様、常に左足のひかがみを伸ばし、右手は軽く持ち、左手は固定し、心を動かさないことに注意して、その後の稽古に臨みました。

立会いの一分間の審査では、審査会場に入場から姿勢・刀法・三歩前進から蹲踞の間、始めの号令のあとの構え、発声気合・間合の攻めまでは、自分一人の所作であり、ここまでで合否が決するぐらい重要である（吉山満著書）ことにポイントを置き、武道館の鏡の前で蹲踞の練習を繰り返し行いました。

又、今回の審査の立会いでは、益田先生が常に言われている触刃から交刃の間に至るまでの息を詰めるような厳しい攻め合い、またいわゆる三殺法を理解することで、相手の中心を取り、相手を引き出すことが出来、初太刀の面を打てました。その後は、あせることなく常に先の先を取る気構えのなか審査を終え、合格することが出来ました。

今回の昇段を機に更に自己鍛錬を怠ることなく、西山先生・花里会長ほか諸先輩方々の指導を仰ぎ、礼法や日本の伝統的作法を尊重することが剣道の魅力であり本来の姿であるという精神を貫き、剣道の普及に努める覚悟です。今後も皆様方の更なるご指導をよろしくお願いいたします。

最後に、社会人になってから剣道を再開し、私たちと汗を流し合った、今は亡き井上和男氏のことに触れたいと思います。当時天草で年間稽古日数二百七十日を誇った井上氏。剣を交え、酒を酌み交わし、竹刀を箸に持ち替え剣道談議に花を咲かせながら共に楽しく剣道を修行していた剣友。あんなに剣道を愛し、立派な剣道精神を持ちながら志半ばで亡くなった井上氏の霊前に合格の報告が出来たことで、井上氏の分まで更に精進することを誓います。

編集後記

恒例の市町対抗や市民体育祭などでのことだが、こんなにも多くの剣道愛好家が本連盟にはおられるのだということにいつも驚く。逆に連盟道場天武館での定例稽古や連盟主催の月例合同稽古会では常連のメンバーや当番町の方々が主である。しかも壮年層、熟年層が中心であることも多い。もちろん会員は各自の町で指導や稽古に励んでおられ、そうそうどこへでも出稽古に出かけることは時間的にも仕事の関係からも無理であろう。編集子も四十くらいまでは今ほどの稽古はできなかった。ところで歳を重ねるほどに剣道の面白み、深みが分かってくるのはなぜだろう。また歳とともに跳躍力や筋力は衰える一方でも、体捌きや竹刀捌きは若い頃より寧ろ速く上手くなる人も多い。これには不断の修練を要することは勿論としても、そこに剣道の飽くなき魅力のひとつがありそうだ。連盟の発展にはまず多くの会員が剣道を楽しめる事が最重要。そのための創意工夫を連盟役員全体で考えたい。会員諸氏、特に今からの若い方々は是非積極的参加とご意見を。